大使館でお茶を

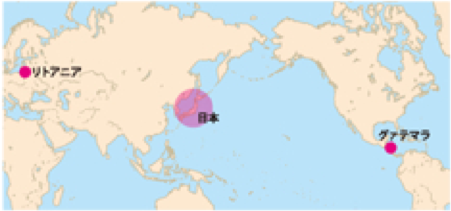
Join us for tea at the Embassy

第十回　グァテマラ共和国　九月九日
対企画　グァテマラ大使と共に学ぶ茶事と懐石
　　　　＠駒場旧前田邸迎賓館　十月二日
第十一回　リトアニア共和国　十月二十五日

日本に居ながら各国のおもてなしを、それぞれのお国自慢のお茶やお菓子、お酒などとともに体験する「大使館でお茶を」のシリーズが好評です。

終了後の参加者の感想でいつも聞かれるのは「あまり知らなかった国がグッと身近になった。行ってみたい」というものです。曖昧なイメージであった国が親しみのある魅力的な国へと変わる、そんなきっかけとなっているようです。

新たな試みとして、対企画で「大使と共に学ぶ茶事と懐石＠駒場旧前田邸迎賓館」も実施いたしました。日本文化を外国人である大使と一緒に体験することで、日本の文化を別の角度から再認識できたと、こちらも参加者の皆さんに喜んでいただけました。



それぞれのイベントの詳細報告はＩＡＣのフェイスブック（「大使館でお茶を」の専用フェイスブックもあり）やホームページで大使館のコメント、参加者の感想を写真とともに掲載しています。どうぞ、ご覧ください。

このＩＡＣの企画への在日各国大使館のご協力に感謝申し上げます。

▲グァテマラ大使（右から２番目）を IAC スタッフが事前打ち合わせで訪問

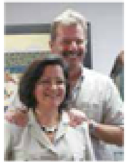
グァテマラ

素敵な大使ご夫妻のおもてなし

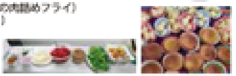
参加者へお心遣いでしょうか、グァテマラの公用語のスペイン語ではなく、英語でお国紹介をしてくださったのは、アンヘラ大使で、そのファーストネームで自然に呼びかけてしまうような雰囲気をお持ちの大使です。当日、テーブルに飾り付けられた特産の美しい織物、多彩なお料理の、それぞれの丁寧な盛り付け、参加者たちへのお声掛けなど、大使としての素晴らしいホストぶりにも感心いたしました。

多民族国家で、豊かな自然、観光スポット、マヤ民族の織物や民族衣装など、お国の魅力もたっぷりで、二十代の人口が国の半分を占めるというお話をうかがい、これからも関心を持ってグァテマラを見ていたいと感じました。

また、大使のご夫君のピエールさんは、スイス人の写真家で、お二人を結び付けたのは情熱的なラテンのダンスだったとか。イベントの写真撮影、参加者との談笑、その間も、空いたお皿やコップをさりげなく片付けるという、ご夫君のその自然なサポートぶりには、参加者たちから「素敵なカップル」と熱い視線が注がれました。


▶Her Excellency
Mrs. Ángela María de Lourdes CHÁVEZ BIETTI
アンヘラ・マリア・デ・ロウルデス・チャベス・ビエティ
大使ご夫妻

▲グァテマラ国旗の色をイメージさせる
IAC ネットショップで取り扱いの botanical ango の
オリジナルトートバッグを大使にプレゼント



- ペピアン Pepian（グァテマラの伝統料理で肉と野菜の煮込み）
- ピラフ arroz con verduras
- エンチラーダス Enchiladas guatemaltecas（野菜、肉を乗せた揚げトルティーヤ）
- チリモルソース Chirmol（ソース）
- チレス・レジェノス Chiles rellenos（ピーマンの肉詰めフライ）
- ヌエガド Nuegados Guatemaltecos（揚げ菓子）
- クルティード curtido（ピクルス）
- トルタデエローテ torta de elote（トウモロコシケーキ）
- 一番搾りラム酒ロンサカパ　Ron　Zacapa

写真 © 小山茜（IAC 会員、写真家）

リトアニア

日本と似た自然崇拝の伝統もあります。

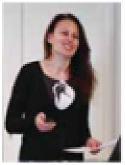
リトアニア、バルト三国の中でも、杉原千畝氏がリトアニア領事として多くのユダヤ人の命を救ったことから、日本人には一番なじみがある国かもしれません。でも、リトアニア国自体はあまり知られていないのではないでしょうか。当日、迎えてくださったのは、リトアニア大使夫人のガリナさんです。

ガリナさんは、日本文化に大変興味を持たれ、各地のお祭りなども取材されています。当日、お国紹介は通訳なしでガリナさんのスムーズな日本語で行われました。リトアニアは一九九一年に旧ソ連から独立を果たしましたが、中世にはリトアニア大公国として栄えた歴史の古い国で、首都ヴィリニュスの美しい旧市街は、世界遺産に指定されています。

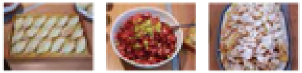
また、多くの湖が点在する自然豊かな国で、日本の神道的な自然崇拝の伝統もあります。

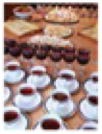
名産品の、琥珀はアクセサリーだけでなく、化粧品やなんと紅茶の原料にもなると聞き、とても驚きました。

ガリナさんの好きな日本の漢字「家族」をリトアニア国旗の色の水引きの祝い袋に記してプレゼントし、よろこんでいただきました。


▲Mrs.Galina Meiluniene,
Spouse of the Ambassador of
the Republic of Lithuania
リトアニア大使夫人
ガリナ・メイルーニエネさん

▲国旗カラーになぞらえた水引きをプレゼント





- ビーツ入りサラダ darbovių mišrainė
  （ビーツと白いんげん豆のサラダ）
- キビナイ Kibinai（ミートパイ）
- ツイスター Zagareliai（クリスマスイブのお菓子）
- ミックスハーブティ Etno（ブランド名）
- 赤ワイン Voruta（ブランド名）

写真 © 藤倉明治（IAC 会員、写真家）

対企画　グァテマラ × 茶道

大使と共に学ぶ茶事と懐石 ＠駒場旧前田邸迎賓館

交流を続けている大使とともに日本の伝統的な茶席（茶会）を体験する「大使館でお茶を」の対となるイベントです。

初回は、グァテマラ大使館のアンヘラ・マリア・チャベス・ビエティ大使とフォトグラファーのご夫君をお招きして開催いたしました。

旧前田家迎賓館は駒場公園内にあり、重要文化財にも指定されている素晴らしい建物です。

建てられたのは昭和八年、当時外交官となっていた前田家当主が外国のお客様を招くために当時の粋を集めて建てられた和館。

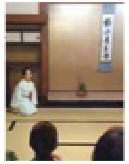
庭には緑を背景に池があり前田家愛用の雪見灯篭も点在、縁側に座っているとゆったりとした時間が流れています。ここが東京ということを思わず忘れてしまう空間です。

日本人の参加者もお茶席は、ほとんど体験したことがないという方が多く、わかりやすい高森梨津子先生（表千家茶道教授、華道家元池坊教授）の茶事についてのレクチャーも好評でした。

弁当の提供で協力頂いた東京ククの古田伸一さん、後藤葉子さん（道家も務めて頂きました）のご協力にも感謝申し上げます。

▲和菓子は小男鹿（さおしか）。小豆の粒が斑点となって鹿の子の姿をイメージしている

▲お茶会亭主の高森梨津子先生（表千家茶道教授、華道家元 池坊教授）



◀お茶席の後の精進料理のお弁当（六本木の精進料理レストラン「宗胡」）

写真 © 国際芸術家センター

文化のフェアトレードをめざして　ＩＡＣネットショップの夢の初夢

いつのことだったのか？楽天などが華々しく脚光をあび、ネットショップ展開を誰でもが夢見るころ、ネットショップ構想がぼんやりと頭の中にかたちあらわしたのでしょう。丁度、ＩＡＣは食を通じての国際交流イベントを立ち上げ、それなりの成果を出してきていました。

日常の消費活動においては、フェアトレードの概念も根付き、小さな会社組織・団体がフェアトレードと銘打って数々の目新しいものをネットにても販売するようになってきていました。それらの多くは、販売の為にフェアトレードと称し、ただ安く発展途上国から物を仕入れ、利益を得ているとしか思えないものでした。他ではグローバリズム、多様性という言葉が氾濫し、私には反対に単一的な価値観の押し売りのような気がしていました。グローバルといいながら欧米一辺倒、多様性と言いながら経済一辺倒、うその連鎖でした。

一方、ＩＡＣでは新たな企画を模索し始めた時期でした。そんなときに国際文化交流＋フェアトレード＋インターネットの三つの概念が結びつき、ＩＡＣネットショップが誕生することになったのです。ショップ誕生はＩＡＣサポーターの児玉曜子さんの存在なしでは考えられません。ご自身のネットショップ運営のノウハウを惜しみなく注ぎ、受注から発送までも一人でこなしていただきました。感謝以外の言葉はありません。ありがとうございました。

ネットショップの今年の夢は参加型ネットショップの実現です。昨年十一月三日のＮＰＯ法人十周年記念パーティで会員の布施茂子さんとのコラボ企画でエストニア商品の即売が大好評でした。布施さん自ら現地へ何回も足を運び厳選したニット製品の数々に参加者の目が奪われました。

「世界いっぱい、文化いっぱい」はＩＡＣのコンセプトです。ところが、世界の文化は、文字通りいっぱい過ぎてＩＡＣだけでは商品の品揃えには限界があります。そこで、世界各地の民族文化の香りいっぱいの商品をご存知の方、また実際に商品として扱っている方にＩＡＣネットショップへの参加を呼びかけていきたいと思っています。あなたが選んだ、独自の文化背景がある商品を、あなたのストーリーを通じて、ネットで紹介すれば、もの＝商品を通じての国際文化交流にも繋がります。また、それは、フェアトレードの概念にもリンクしています。今後ＩＡＣネットショップは、同じ思いを共有する人達の参加によって、新しいスタイルのネットショップ展開をしていきます。ふるって応募ください。

（文：ＩＡＣ理事　川崎知）

ＩＡＣネットショップ　http://iactokyo.shop-pro.jp/

事務局便り

▶ IACの「心組（こころぐみ）」の活動をご支援ください！
パーフォーマンス、ワークショップなどのご相談をお気軽にIACにお寄せください。

かつて日本各地の住所には「字（あざ）」の記載があり、それぞれの字には、特色のある民俗芸能が伝承されていました。IAC-国際芸術家センターの「心組」はこの日本各地の字の心を舞い踊る舞踊ユニットです。その地域独自の「字（あざ）の芸術」である民俗芸能を、舞台化し世界中の人に楽しく鑑賞していただく目的で2011年から活動を続けています。
心組の舞台は、劇場、ホールだけではありません。地域の神社や祭り、次代を担う子どもたちへの民族舞踊や邦楽の指導、外国人など異文化圏の人たちへの日本文化の紹介など、多彩な展開をしております。心組の作品から日本人の生活の息吹と土の香りを感じていただければと思います。

▶ 2017年もIACは、楽しい文化交流企画を提供します。
フェイスブックやホームページのチェックをお忘れなく！
お電話やメールでのご連絡もお待ちしています。

（事務局：金屋輝美）